地方小出版 情報誌
アクセス

毎月1回　1日発行
購読料　定価150円（本体139円）
年間1,500円（税込み）
振替　00120-0-19017

発行所　㈱地方・小出版流通センター
編集　アクセス編集委員会
〒162-0836　東京都新宿区南町20
TEL.03-3260-0355　FAX.03-3235-6182

本の世界に飛び込むということ

たとえば山小屋に必要な荷物を歩荷する人の姿、そうした山とともに在る人の姿を本にしたい。

石井 裕一／三月社代表

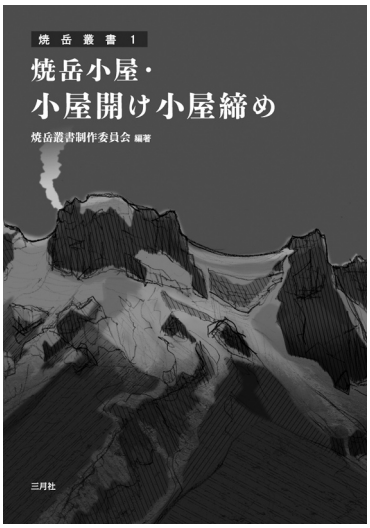
●本の中の人は生きている

2011年2月27日、この日は「東京マラソン」を走った。ゴールした建物の中で少し眠る。DTP作業が続き寝不足だった。起き上がって電車に乗り東京・荻窪に向かう。仕事の先輩の編集者I氏に誘われて「吉祥寺で出版社を営むということ」というトークイベントを聴きに行った。本の世界に飛び込んでください、と話者たちは語る。二次会ではすぐに酔ってしまったのを覚えている。そして、三月を迎えた。

2011年5月、岩手県岩泉町にある災害ボランティアの拠点に入る。代表はボランティアの本を出版していて、自分はたまたまその本を見つけて購入し、ネットで著者名を検索したところ、岩手で活動していることを知った。支援の足りないと思われる地域へ飛び込み、社会福祉協議会と連携して活動を開始、ネットで支援を呼びかけていた。本の世界に飛び込めば、そこには人が生きている。本をきっかけに行動が始まる。そんな本作りに関わりたいと思いながら関東へ戻ってきた。

●山の本の世界が本当にあった

DTPとウェヴ制作の仕事を続けていくと、納期に追われ、昼夜が何度も逆転する。宇宙船に乗っているような状態で次第に筋力が落ちていく。ランニングで“時差ボケ”を正し、筋力を取り戻す。印刷会社への短期派遣で黙々と作業し、残業して夜遅くに戻る日が続いても、終わればまた走る。



『焼岳小屋・小屋開け小屋締め』（焼岳叢書制作委員会編著、定価：本体1250円＋税、四六判上製）

毎年訪れることにしている北アルプスの焼岳小屋は標高2000mに位置する。信州側の上高地の登山口から高差500m、2時間余りの登山道なら、普段から少し走る程度で登れる。そして登れば心が安らぎ、力を取り戻す。

上高地は古くからの山岳景勝地で、バスターミナル周辺は観光客で賑わう。芥川龍之介の『河童』で知られる「河童橋」の袂は、中部山岳国立公園の南の雄である槍ヶ岳や穂高岳への登山口で、多くの登山者が行き交う。その喧噪から離れて、焼岳登山口から中尾峠まで登れば焼岳小屋は近い。吹き渡る風にざわめく野麦に覆われた中尾峠からは、上高地のたおやかな谷間を見下ろせる。その峠をわずかに越えた飛騨側の窪地に小屋は建っている。小屋の前には活火山・焼岳の溶岩ドームがせり上がり、風のおだやかな日には白く細い水蒸気が昇るのが見える。

小屋を訪れる人は槍・穂高に比べれば圧倒的に少ない。1962年の水蒸気爆発から平成になるまでは焼岳頂上は登山禁止だったこともあり、今よりもさらに登山者は少なく、静かだった。深田久弥の“日本百名山”の一山にもかかわらず、登れない山だった。

焼岳小屋にアルバイトに来たのは1985年4月初旬で、まだ山は雪で真っ白だった。『山靴の音』という山の本が好きで、山小屋の番人をするエッセイに惹かれ、その本に描かれた山の世界に飛び込んでみたかった。

その年は雪の降る11月まで、山小屋と上高地の旅館の従業員を交互にして、暮らした。飛び込んだ山の本の世界は本当にあった。そこで生きていた。

世間知らずの若輩者には貴重な社会経験だった。雇ってくれた山小屋の管理人Mさんとしては、授業料を取りたかっただろう。その翌年は、関東の友人Nが山小屋で働く。彼もまた上高地から食材やジュースを背負い何度も登った。その後、Nも自分も山を下りて別の仕事に就く。自分は小さな出版社に飛び込み、独立してDTPやウェブの仕事を請け負うようになった。夏にはNといっしょに山小屋を訪ねた。

●失われる記憶を記録する

2006年の夏の終わり、Nから電話があった。Mさんが亡くなったという。管理人を辞し、後継者のAさんに業務を譲った後は山の麓で一人暮らしていた。自分もNもお世話になった若い日のお礼が叶わなくなった。そして、山小屋での仕事の記憶もまた、時ととも

に消えていくのだと知った。Mさんの後を継いだAさんの仕事ぶりや、アルバイトの姿もまた、残さなければ消えていく。1962年の爆発で壊れた山小屋の記録はほとんど残されていないし、この活火山が再び活動を起こし姿を変えるかもしれない。この山と人の記憶は記録しておこう、そうNと話しあい、撮影を始めた。

●読者が飛び込める本を

山の写真や動画、登山記録はネットで誰でも公開できる。それとは違う記録を残したいと考えた。たとえば山小屋に必要な荷物を歩荷する人の姿だ。Mさんも、Aさんも、Nも歩荷し、峠を越えて山小屋に運んだ。江戸時代、信州と飛騨がこの峠を介して繋がっていた時期はどうだろうか。そうした山とともに在る人の姿を本にして、シリーズにしたらどうだろう、この火山と人の関わりを総合的に把握する本を出そうと思った。

事業として続けるなら、書店で本を購入してもらえるようにしたい、そう思い、2014年4月、地方・小出版流通センターの川上社長に電話を差し上げた。ほどなく届いたファクスの書面には「売るための本はありますか？」と書かれている。確かにその通りだ、本を印刷し、郵送する。見ず知らずの人間から届いた本を見て、社長は会社に来てくださいと電話をくれた。うれしい反面、時間が経つにつれて怖くなっていく。本は人を介して届く。その仕事に見合う、届けるに足る本か？

読者が飛び込んでみたい本なのか？

そう、問われている気がした。

第二弾も準備している。山の本に限らず、読者が飛び込める本、読むことで、よりよく生きることに繋がる本になるよう努めたい。

なお冒頭に出てきた編集者I氏もまた、本に飛び込む一人になった。居を移し、神戸から本を出していくという。山の先輩でもあるI氏の作る本はどんな本だろうか。期待して待ちたい。

（いしいひろかず／三月社代表）

新刊ダイジェスト

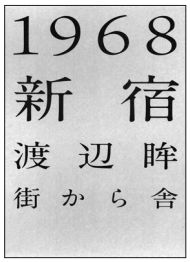
※価格は税込（消費税率8%）表示です。

『山本美香が伝えたかったこと』●山本美香著／ジャパンプレス・山梨日日新聞社編

2012年シリアで取材中に銃撃を受けて死去した、ジャーナリストの山本美香。本書は彼女が山梨日日新聞に寄稿した、チェチェンやイラクなど紛争地についての記事を中心にまとめたものである。なかでもチェチェンの孤児や、タリバンの目を恐れながら勉学に励む女性たちなど、子供や女性についての記事が多いのが特徴的である。また東日本大震災の取材では、避けられない天災に対し、紛争による死は避けられるとの思いも強くした。そんな避けられたはずの災難が今も起こっている、その現実を伝えたいという気持ちが彼女を紛争地の取材へと駆り立てたのだろう。その思いがひとつひとつの記事からも伝わってくる。

◆1404円・四六判・158頁・**山梨日日新聞社**・山梨・2014/8刊・ISBN978-4-89710-012-8

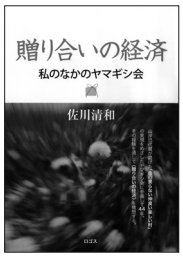
『１９６８新宿』●渡辺　眸著



1698年を中心に、その前後の東京新宿の光と闇を切り取った写真集。この時代の新宿を一口で定義することはできない。駅西口は通路ではなく広場だと主張する若者たちが座り込んでフォークゲリラ。断固排除と囲む機動隊。東口から近いコマ劇場で美空ひばりショー、エノケンのコメディーに興ずる者がいれば、その先の花園神社には唐十郎が紅テントを張る。キャバレー引きやオカマがたむろするネオン街、裏路地では子どもたちが無邪気に遊ぶ。ヘルメット、角材の学生が雄叫びを上げ、ベンチでアベックが戯れる。様々な価値観が交錯し、正に混沌。それが新宿文化、ある意味で新宿が新宿らしく輝いていた時代ではなかったかと魅入らされる。

◆3240円・B5判・166頁・**街から舎**・東京・2014/9刊・ISBN978-4-939139-20-8

『贈り合いの経済　ー私のなかのヤマギシ会』●佐川清和著

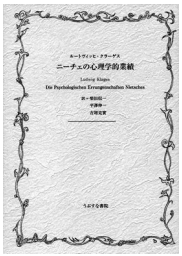


ヤマギシ会は「われひとととともに繁栄せん」をモットーに「共同生活で無所有・無競争の理想社会」の実現をめざして、山岸巳代蔵（1901-1961）によって設立された。一見、新興宗教の一つのようだが、「100万羽養鶏」にみられるように、安全な有精卵の常時大量供給を可能とする農業団体でもあることが他と異なる。

ヤマギシ会について書かれた賛否、多種多様な内容の本が数多く出ている。そのなかで本書の特徴は、現在の指導者の一人とみられる著者によって内部から見たヤマギシ論が述べられていることで、吉本隆明、鶴見俊輔、見田宗介、北山修等の論者の見解も紹介している。なお、「ヤマギシ会事件」についても詳しく触れている。

◆2700円・A5判・284頁・**ロゴス**・東京・2014/8刊・ISBN978-4-904350-32-4

『ニーチェの心理学的業績』●L・クラーゲス著／柴田収一ほか訳



更新と生成を繰り返す生命の原理とそれを脅かす精神の原理との形而上学的二元論を思考の根に据えるクラーゲスは、生命主義がゲーテからロマン主義を経てニーチェとともにエポックをなした、とする。しかし、その生命主義者ニーチェが、あろうことか、生命敵対的な〈権力への意志〉を生命と同一視するという誤謬を犯した、と言う。この〈権力への意志〉批判は通奏低音として本書全体を貫いている。また〈同一物の永劫回帰〉について「ニーチェ自身が誤って自分の最大の思想であるとみなしていた」と述べ、絶えざる自己否定に脅かされていたニーチェが、生命を千度でも繰り返し奪い返すために手に入れた魔法の呪文だったとしている。

◆3456円・A5判・385頁・**うぶすな書院**・東京・2014/6刊・ISBN978-4-900470-30-9

『釜石ドリー物語』●篠田次郎著

港町の釜石に英会話教師として赴任してきた若きアメリカ人女性ドリー・C・ハーマン先生。彼女が一躍有名になったのは地元酒蔵「浜千鳥」主催のきき酒コンテストで全問正解して名人と認定されてから。大の日本酒好き彼女を囲み、オンツァン（おじさん）たちは夜な夜な居酒屋に集う。そんなドリーを主人公に、設計士として釜石に通い、日本酒評論家でもある著者が紡ぎ出した全212話。ちょっぴり艶っぽい中にも美味そうな酒肴の紹介や雑学などを織り交ぜ、ラスト一行で思わずニンマリさせられる。いい酒といい店があり、気のおけない飲み仲間が集まれば、ネタには事欠かない。震災後の釜石を元気づける話に溢れている。

◆1620円・四六判・223頁・**無明舎出版**・秋田・2014/8刊・ISBN978-4-89544-585-6

地方小出版流通センター　ジャンル別新刊案内

2014年9月1日～30日
流通センター着

※各ジャンル内での出版社名は所在地の北から南の順に並んでいます。

価格は税込（消費税率8%）表示です。

【雑誌】

◆**ｆａｕｒａ**　４５　ナチュラリー編　Ａ４　80頁　１０２８円　ナチュラリー［北海道］978-4-503-20335-9　14/09

◆**ゆきのまち通信**　１５４　企画集団ぷりずむ編　Ａ５　50頁　５００円　企画集団ぷりずむ［青森］978-4-503-20326-7　14/09

◆**榛名団**　１２号　富沢　智編　Ａ５　76頁　６４８円　榛名まほろば出版［群馬］978-4-503-20342-7　14/09

◆**GREEN REPORT**　４１７　廣瀬　仁編　Ａ４　192頁　２８００円　地域環境ネット［埼玉］978-4-905457-49-7　14/09

◆**響き合う街で**　Ｎｏ．７０　やどかり出版編　Ｂ５　62頁　１２９６円　やどかり出版［埼玉］978-4-503-20337-3　14/08

◆**くらしと教育をつなぐ　Ｗｅ**　Ｎｏ．１９２　中村　泰子編　稲邑　恭子編　Ａ５　80頁　８６４円　フェミックス［神奈川］978-4-903579-59-7　14/10

◆**山岳修験**　第５４号　日本山岳修験学会編　Ｂ５　124頁　３０２４円　岩田書院［東京］978-4-503-20345-8　14/09

◆**仏事**　Ｎｏ．１６９　清水　祐孝編　Ａ４　96頁　１６２０円　鎌倉新書［東京］978-4-503-20346-5　14/10

◆**月刊住職**　Ｎｏ．１９０　矢澤　澄道編　Ａ５　199頁　１４０４円　興山舎［東京］978-4-904139-98-1　14/09

◆**子どもの文化**　Ｎｏ．５２２　片岡　輝編　Ａ５　48頁　３１３円　子どもの文化研究所［東京］978-4-503-20347-2　14/10

◆**ｔｈｅ座**　Ｎｏ．８１　小西　恵美子編　篠藤　ゆり編　Ｂ５　48頁　１０００円　こまつ座［東京］978-4-503-20333-5　14/09

◆**茶道の研究**　Ｎｏ．７０６　三徳庵編　Ａ５　84頁　５４０円　三徳庵［東京］978-4-503-20321-2　14/09

◆**調査情報**　Ｎｏ．５２０　市川　哲夫編　255mm×160mm判　104頁　７８９円　ＴＢＳ編成局［東京］978-4-88717-508-2　14/09

◆**東京かわら版**　Ｎｏ．４９２　佐藤　友美編　204mm×108mm判　142頁　４３２円　東京かわら版［東京］978-4-503-20344-1　14/09

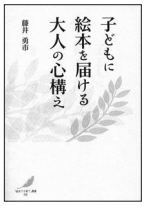
◆**俳句四季**　Ｎｏ．４４６　松尾　正光編　西井　洋子編　Ｂ５　160頁　８８０円　東京四季出版［東京］978-4-503-20339-7　14/09

売行良好書

期間：2014年9月16日～10月15日

［出荷センター扱い］ ※価格は税込（消費税率8%）表示です。

(1)『今日の漫画　史群アル仙作品集』1296円・ナナロク社　(2)『山本美香が伝えたかったこと』1404円・山梨日日新聞社　(3)『つるかめ食堂』1512円・ベターホーム出版局　(4)『不登校は１日３分の働きかけで９９％解決する』864円・リーブル出版　(5)『子どもに絵本を届ける大人の心構え』1080円・「絵本で子育て」センター　(6)『月と蛇と縄文人』1944円・寿郎社　(7)『筑豊一代　炭坑王　伊藤傳右衛門』1944円・書肆侃侃房　(8)『若山牧水への旅』1944円・弦書房　(9)『珈琲飲み』2592円・洛北出版　(10)『未来ちゃん』2160円・ナナロク社　(11)『私たち抜きに私たちのことを決めないで』1000円・やどかり出版　(12)『八雲の妻』2376円・松江今井書店



［三省堂書店神保町本店　センター扱い図書］ ※価格は税込（消費税率8%）表示です。

(1)『サンリオＳＦ文庫総解説』1944円・本の雑誌社　(2)『東京かわら版　１０月号』432円・東京かわら版　(3)『本の雑誌　３７７号』700円・本の雑誌社　(4)『夜想＃カフカの読みかた』1620円・ステュディオ・パラボリカ　(5)『昭和プロレスマガジン　３３』1000円・昭和プロレス研究室　(6)『永遠の東宝映画俳優』2700円・くまがい書房　(7)『パズル通信ニコリ　ｖ．１４８』907円・ニコリ　(8)『涙を流し口から火をふく、四川料理の旅』1620円・書肆侃侃房　(9)『手賀沼をめぐる中世２』1080円・たけしま出版　(10)『八王子城今昔物語絵図』756円・揺籃社

［ジュンク堂書店池袋店　地方出版社の本―センター扱い図書］ ※価格は税込（消費税率8%）表示です。

(1)『いのちをいただく』1296円・西日本新聞社　(2)『ＴＨＥ　ＢＵＲＧＥＲ　ＭＡＰ　ＴＯＫＹＯ　東京・神奈川・埼玉・千葉』1404円・幹書房　(3)『奥多摩東部登山詳細図　全８８コース』823円・吉備人出版　(4)『高尾山・景信山　陣馬山　登山詳細図』823円・吉備人出版　(5)『オーロラのお針子』1836円・書肆侃侃房　(6)『写真でわかる　磯の生き物図鑑　フィールド版』2160円・トンボ出版　(7)『名伯楽のミット』1404円・沖縄タイムス社　(8)『秩父札所巡礼　花と人』1296円・埼玉新聞社　(9)『神と仏の再発見』2160円・津軽書房　(10)『不登校は１日３分の働きかけで９９％解決する』864円・リーブル出版

以下ホームページ等でも各種情報提供を行なっております。ご利用ください。
ＵＲＬ：http://neil.chips.jp/chihosho/　　ツイッター公式アカウント：@local_small

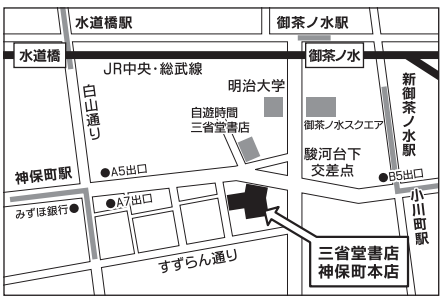
トピックス ―― ★★★

▼長い間本誌に広告を出稿いただいていた**村松書館**の村松俊彦氏が亡くなりました。謹んでご冥福をお祈りいたします。入院療養中と聞いていましたが、すぐに退院されて、『シュトルム全集』次回配本に向けて仕事を再開されるだろうと思っていました。残念です。その『シュトルム全集』第４巻はすでに翻訳は出来上がっているとのことでしたが、村松書館が廃業となるため、現在は宙に浮いた状態になっているようです。今後『シュトルム全集』がどうなるかは未定です。

▼紀伊國屋書店新宿本店にて「**全国新聞社ふるさとフェア**」開催中です。11月14日まで。北海道から沖縄まで46の新聞社出版部で構成される「全国新聞社出版協議会」主催。共同通信社が主管。今回は34社が参加する大きな規模のフェアとなりました。東京での開催は17年ぶりとのこと。３階レジカウンター前にて。

郵便販売のご注文方法

◎お名前、お届け先（郵便番号、住所）、連絡先お電話番号、ご注文品の書誌名、冊数の必要事項を明記のうえ、下記までＦＡＸでご連絡ください。
◎送料は、冊子小包・メール便共実費でお送りさせて頂きます。基本的にメール便は、一冊２１０円でお送り致します。（メール便の到着は、発送してから３～４日かかります。）お急ぎの方、その他ご要望がございます場合はお気軽に下記までお問い合せ下さいませ。
◎なお書籍お買上総計（税抜き価格）が5,000円以上の場合は、送料をサービスさせて頂きます。
★地方・小出版流通センター
ＦＡＸ：０３－３２３５－６１８２

地方・小出版物のデータになります。綴じて保存してください。

BOOKS SANSEIDO
三省堂書店
営業のごあんない
神保町本店 ４階
地方出版・小出版物フロア
営業時間　10：00 AM～8：00 PM
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1
TEL. 03-3233-3312(代)
URL. http://www.books-sanseido.co.jp
本店4階売場では、地方・小出版流通センター扱いの新刊全点のほか、地域別に書籍を取り揃えております。また、地域ならではのタウン誌、趣味の雑誌も扱っております。